

令和6年度学校経営計画書

岡山県立倉敷琴浦高等支援学校

○本校のミッション（使命、存在意義）

- ・職業教育に重点を置いた教育課程を編成し、就労支援機関や産業現場等との連携を図りながら、比較的軽度の知的障害のある生徒の就労による社会自立を目指す。
- ・職業科をもつ特別支援学校として、県下の知的障害特別支援学校における職業教育推進の先導的役割を果たす。

○学校内外の環境分析

【学校外】

- ・学校周辺に繊維産業をはじめ、多くの事業所があり、現場授業や現場実習の受け入れ等に協力的である。また、地域も本校を好意的に受け入れている。
- ・最寄りの駅から遠く、交通の便が悪い。また、学校の近くは道幅が狭い上、交通量が多いなど道路事情は悪い。
- ・多様性（ダイバーシティ）と包摂性（インクルージョン）のある社会の実現が求められるとともに、近年連続して障害者の法定雇用率が引き上げられ、障害者雇用に関心を示す事業所も増えてきている。
- ・地域の高等学校や小・中学校への相談・支援件数（中学校への適切な進路指導を含む）が増加し、センター的機能の充実が求められる一方、入学志願者数は近年減少してきている。
- ・今年度から全学年で新学習指導要領に則った教育が始まる。「社会に開かれた教育課程」を踏まえた教育の推進とともに、社会の変化に対応し生き抜くことができる「生きる力」や、教科等横断的な視点に立った資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力）、現代的な課題に対応して求められる資質・能力の育成が求められている。【新学習指導要領】
- ・卒業後、対人関係やコミュニケーションの困難さ、自己理解の不十分さ等の理由から、自分では上手く対処できず、早期に離職する状況が見られる。【第4次特別支援教育推進プラン】
- ・持続可能な学校指導・運営体制の構築の観点から、教職員の勤務時間の適正化や業務の効率化などの、働き方改革が求められている。【中教審】
- ・ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成、教職員のICTの活用指導力の向上など、学校教育の情報化の推進が求められている。【おかやま学校教育情報化推進計画】

【学校内】

- ・生徒の多くは、本校で学びたいという意欲をもって入学してきている一方、本校の教育内容や自己の障害理解が不十分なため、学習意欲が高まらない生徒もいる。
- ・成功体験や自己決定の経験が少なく、指示待ちになる生徒が多い。
- ・社会人講師活用事業により、専門的な知識や技術を有する方々に直接指導を受けることができる機会を多く設定している。
- ・産業現場等における実習と振り返りを丁寧に行うことで、希望の進路を決定することができている。過去3年間の一般就労率（就労継続支援A型事業所への就職を含む）は、85～96%。
- ・対人関係の持ち方や場にふさわしいふるまい方、健康面等に課題がある生徒や、生活基盤が弱く、家庭への支援が必要な生徒がいる。
- ・ソーシャルメディアの利用が普及し、SNSを介した生徒同士のトラブルが増加している。
- ・研究を推進し、一人一研修や公開授業研究会を毎年開催し、指導力向上に努めている。
- ・どの教職員も「就労による自立」を目指す教育に意欲を持って取り組み、3つの課を中心に組織的対応を心掛けている。
- ・「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実、業務の効率化に向け、ICT活用に取り組んでいるが、教科の特性や教職員の技能差により、活用状況にばらつきがある。
- ・令和4年度より学校運営協議会を開催し、多方面からの意見を学校運営に反映している。
- ・創立15年目を迎えるとともに、学習指導要領の改訂や新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけの5類移行に伴う社会の変化を踏まえ、教育活動を発展的に見直す時期にある。

○ミッションの追求を通じて実現しようとする本校のビジョン（将来像、目指す姿）

□目指す学校像	○働き続ける力を育成する学校 ○自分らしく生きる力を育てる学校 ○生徒の安全・安心を支える学校 ○地域とつながり、地域に貢献する学校
□目指す生徒像	○心豊かでたくましく、主体的に行動する生徒【自律】 ○夢や目標の実現に向け、粘り強く挑戦する生徒【希望】 ○社会人・職業人として役割を自覚し、社会に貢献する生徒【共生】
□目指す教師像	○指導力・専門性の向上を目指す教師 ○社会人・職業人としてのモデルを示す教師 ○学校経営に主体的・組織的に取り組む教師

○学校教育目標

将来の社会的・職業的な自立を目指した教育を推進することにより、生徒の自己実現と自立・社会参加を実現し、社会に貢献できる人材を育成する。

○当該年度の具体的な学校経営目標・計画

- 1 キャリア発達を促す指導支援と進路指導の充実
 - ★キャリア教育全体指導計画を見直し、働き続ける力を育成する授業を推進する。
 - ・個別の実態や教育的ニーズをもとに目標設定し、指導と評価の一体化を進め、教育の充実に努める。
 - ・校内での授業と現場実習等の校外実習の往還を通じた学びを進め、家庭と連携しながら、生徒の進路実現に取り組む。
- 2 人と関わりながら主体的に生きる力の育成
 - ・目標を持ち、自ら人や社会と関わりながら活動しようとする意欲や態度を高められる教育活動を展開する。
 - ・社会生活を送る上で大切な挨拶や報告・連絡・相談が主体的にできるようにするための取組を推進する。
 - ★ナビゲーションブックの作成や他者評価の充実、ポジティブな行動支援など、自己理解を深める取組を進める。
- 3 安全安心で、充実した学校生活の送るための環境の整備
 - ・安全管理の徹底と非常災害・緊急事態等に備えた危機管理体制の確立・充実を図る。
 - ★人権を尊重し、互いを認め合いながら共に生きる気持ちの高揚を図る。
 - ・将来を見据えた健康及び性に関する教育を推進する。
- 4 地域とつながる開かれた学校づくりの推進
 - ★地域資源を活用した学習や地域交流など、地域資源を活用した教育活動の充実を図る。
 - ・家庭への支援が必要な生徒の情報共有を適切に行い、必要な関係機関に迅速につなげ、生徒の学ぶ環境を整える。
 - ・高等学校等への支援や本校教育活動の情報発信を継続的に行い、地域に対するセンター的機能を発揮する。
- 5 ICT活用の推進
 - ★授業や家庭学習における1人1台端末の効果的な活用を推進する。
 - ・情報モラルに関する指導内容の改善・充実を図る。
- 6 指導力の向上と学校運営組織の活性化
 - ・外部講師による研修や一人一研修、公開授業研究会などを通して、教職員の指導力・専門性を高める。
 - ・教職員一人一人のヘルスケア意識を高め、ワークライフバランス向上に向けた取組を推進する。
 - ・風通しの良い、活気ある職場づくりに努める。